

第466回鉄鋼流通問題懇談会

2024年8月1日（木）14：30
茅場町「鉄鋼会館811号室」

議 題

1. 配布資料説明（全鉄連）
2. 全鉄連情勢報告
 - (1) 地区の状況
 - 東京（鉄流懇・提出資料参照）
 - 東京、大阪、東北、新潟、福井、岡山地区概況報告
 - (2) その他地区の概況
 - 鉄流懇7月例会で発表の各地区業況アンケート結果
 - (3) 総括：井上全鉄連会長
3. 意見交換
4. テーマ「2024年の物流問題についてパート2」

メーカー、商社、全鉄連（井上副会長、吉岡常任理事）、発言ごとに質疑応答

○発表時間は3～4分程度、主なご発言内容の要点については下記の3点です。

 - ・4月1日施行から4ケ月経過しているが、物流問題の取り組み（対策）はうまくいっているかどうか。うまくいってない場合はどのような点なのか。
 - ・何か物流問題について取り組み（対策）をしているのであれば教えてください。
 - ・運賃を含めた価格転嫁はどの程度できていますか？今後の対応も含めてお話しください。
5. 総括：赤木鉄流懇会長
6. 次回会議予定

2024年10月30日（水）14：30～ 於：茅場町「鉄鋼会館706号室」

次回テーマ：「現場のDX化」について

発表項目	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	メタルワシ	住友商事グローバルメタルズ	阪和興業	日鉄物産
1. 需給動向（景況感）	<p>大型物件向けにつき、都市再開発等は引合数に減少傾向はなく、引き続き堅調。6月度実績については、前年同月比重量▲5.9%～15%程度にて推移。中小建築物件の動きが悪く、在庫回転率が悪い状態が続いている。先々の物件の話も少なく、今年中については同程度にて推移予測をしている特約店が多数。</p> <p>価格動向につき、ボトム(2020年10月頃)比で、高炉各社は23年度時点で+85円/kg・24年度から更に+10%と唱えており、溶協各社は24年度より+10円/kg(累計95円/kg)を唱えているが、需要が芳しくない事を理由に、完遂出来ているメーカーは少ない模様。</p>	<p>2024年5月末の薄板三品在庫(確報値)は、前月比4千トン増の412万1千トンとなり、5ヶ月連続で400万トンを超える水準となった。在庫内訳はメーカー在庫が前月比1万9千トン減の165万5千トン、問屋在庫が同4千トン減の90万1千トン、コイルセンター在庫が同2万7千トン増の156万5千トンとなった。在庫率は2.94ヶ月となり前月比0.11ポイント増加した。</p> <p>自動車生産については認証不正に伴う出荷停止、立ち上げ延期等による生産台数減少の影響等により在庫は高止まりしている状況。建築関係の指標についても前年同月比でマイナスとなっていることに加え、電機関係の生産水準も前年比でマイナスでの推移となっており、需要環境としては厳しい状況が続いている。</p>	<p>4月末の全国厚中板在庫は382千トンで前月比8,990トン増。受け入れ量が出荷量を上回り、2ヶ月連続の在庫増となった。在庫率は全国ベースでは前月比19ポイント上がり27.4%となった。在庫増傾向にあり、適正在庫率と言われる200%を依然大きく上回っている状況。</p> <p>需要に関して、建機分野ではショベル、クレーン分野ともに需要減。24年度も人手不足もあり、さきゆき不透明感あり。建築は引き続き中小案件が足元鈍く、大型再開発案件待ちの状況。人手不足もあり稼働率低い。産業機械関連は中国需要減良。内需需要は堅調に推移。そこまで供給面ではタイト感を感じられていない状況。</p>	<p>形鋼：2024年度4～6月H形鋼のときわ会ベース全国平均在庫量は64.2千トン/月。1～3月平均比▼1.7千トン/月、前年同期比▼6.8千トン/月。建設需要は、人手不足や諸コスト上昇等の影響を受けて引き続き低調で工事遅延や見直しも散見される。先々は首都圏再開発等の大型プロジェクト案件の需要が底堅く推移する見込みだが、依然中小案件は伸び悩みが続いている状況。</p> <p>棒鋼：関東地区6月の明細受注量は13万5,435tと前月比▼7.4%と相変わらず低水準の数量となっている。現場の稼働率も落ち、各メーカーの出荷量はさらに落ちている。半年前は鉄筋工等の労務不足の話も聞かされたが、足元は解消されている。来年から始まる案件が多く先々の労務不足が心配される。</p>
2. 需要産業動向	<p>【建築土木】24年5月の新設住宅着工戸数は、前年同月比5.2%減の6万5,945戸となり、先月の増加から再びの減少となった。内訳は持家が1万7,258戸で同8.5%減となり30か月連続の減少。貸家が2万7,192戸で同5.2%減。分譲住宅は2万1,212戸で同0.8%減、うちマンションは1万976戸で同13.2%増(2か月連続の増加)、一戸建住宅は1万110戸で同13.0%減(19か月連続の減少)となった。</p> <p>【自動車】国内乗用車メーカー8社の5月世界生産は前年同月比1.5%減の204万5,522台で2か月ぶりのマイナスとなった。中国での販売競争激化が主要因。国内生産台数は同4.4%増の61万6,678台で5か月ぶりの増加。8社中5社が前年同月を上回り、認証不正で生産が落ち込んだダイハツのマイナス幅が縮小した。8社の世界販売台数は200万9,230台で同0.3%減。中国では電気自動車の市場が拡大しており、日本メーカーの販売状況は厳しい。</p> <p>【建機】5月の建設機械出荷金額は内需は5.7%減の747億円、外需は4.6%減の1,918億円となった。内需は3か月振りの減少、外需は4か月連続の減少。</p> <p>【造船】6月末の手持ち工事量は659隻、3025万総トンで前月末比で137万総トンの増加。3,000万総トンを超えるのは8年半振り。輸出船契約は前年同月比74.3%増の215万総トンで、前年同月を上回るのは5か月連続。</p>	<p>2024年5月の自動車国内販売は、28万8千台(前年同月比5.0%減)と、5ヶ月連続のマイナス。乗用車が23万8千台(同5.2%減)、トラックが4万9千台(同4.7%減)となった。5月の民生用電気機器の国内出荷金額は、2.14億円(同106.0%)と2ヶ月連続のプラスとなった。ルームエアコンは前年比118.7%と2か月連続の二桁プラス、冷蔵庫は同3ヶ月連続のマイナス、洗濯機は同11ヶ月連続のマイナスとなった。民生用電気機器全体では全国的な暑さや猛暑予想によるルームエアコンの出荷が好調に推移したことにより前年比はプラスとなった。国土交通省より発表された、5月の新設住宅着工戸数は6万6千戸(同5.3%減)と2ヶ月振りの減少。持家は30か月連続、貸家は2ヶ月振り減少。また、倉庫についても6ヶ月連続減少となった。</p>	<p>造船の4月末輸出船手持ち工事量は2,794万GTで、3月比32万GTの増加となった。2023年度4-3月(12か月)分の輸出船受注量は、前年同期比横ばい1,170万GTと11.8%減少。2023年1-12月分の輸出通関量は、前年同月比9%増の908万GT。建設機械の4月の出荷金額は内需が755億(前年同月比0.6%増、外需が2,056億(同4.7%減)、合計2,812億円で前年同月比横ばいとなった。総合計では3ヶ月連続前年同月比で減少。大手建機メーカーの生産計画は下振れに変化し始めている。エンジンなど部品調達には変わらず低調の状態。産業機械の5月受注金額は内需が4,131億(前年同月比89%増)、外需が1,035億(同33%減)、合計5,167億円で前年同月比38.5%増。機種別では、ボイラ・原動機、プラスチック加工機械、ポンプ、運搬機械、変速機が好調。</p> <p>建築に関して、鉄骨数量は2023年度391万トン。前年度比9.4%減。2024年度は前年度以下となる見通し。中小物件は盛り上がり欠け、都市再開発の大型案件も物件遅れなどある状況。</p>	<p>2024年5月の全建築物の着工床面積は835万㎡(前年同月比▼7.1%)と7か月連続の減少。内訳として公共建築主27万㎡(前年同月比▼38.7%)で3か月ぶりの減少、民間建築主808万㎡(同比▼5.5%)で7か月連続の減少。新設住宅着工戸数は65,882戸(前年同月比▼5.3%)、新設住宅着工床面積は519.8万㎡(同比▼5.3%)、非住宅着工床面積は26.3万㎡(同比▼8.5%)で2か月連続の減少。建築着工統計に基づく換算鉄骨量は2024年5月単月で28.2万tと前年同月比▼4.3%の減少、2024年度第2四半期の鋼材需要量は1,915万tの見通しで前年同期比▼5.5%の減少、前期の2024年度第1四半期比では+1.5%と微増の見通し。</p>
3. 輸出入動向	<p>2024年5月度鋼管輸出量 縦目無鋼管：1万4,482トン 溶銲接鋼管：1万1,472トン</p> <p>2024年5月度鋼管輸入量 縦目無鋼管：1,107トン 溶銲接鋼管：1万2,627トン</p>	<p>5月の薄板三品輸入量は31万7千トン(前年同月比1万9千トン増)であった。主要品種別では、熱延が14万トン(同6.7%増)、冷延が7万7千トン(同横這い)、亜鉛めっきが9万6千トン(同11.3%増)となった。5月末の輸入岸壁在庫は14万6千トンとなり、前月比で7千トン増加した。</p> <p>3ヶ月連続で輸入が30万トンを超えており、中国材の恒常的な輸出増加に押し出された結果として、韓国・台湾からの入替も増加している。関東では引き続き滞船数が10隻前後で推移していると聞いており、今後の中国船の入荷により更に滞留する可能性が懸念される。</p>	<p>4月の輸入通関実績は前月比1万トン増の9.4万トン。中国からは0.6万トン(前月比0.6万トン増)、韓国が0.4万トン(前月比0.2万トン減)、台湾が0.3万トン(前月比0.1万トン増)となった。4月の輸出船積実績24.8万トン(前月比3.3万トン減)。</p> <p>中国向けに1.3万トン減、韓国向けは3.3万トン減、東南アジアでは1.6万トン増、欧州向けは2.4万トン増となった。</p>	<p>輸出：5月の形鋼輸出数量は、H形鋼以外も含む全体で51,978tと前月比+113.7%の増加。内、H形鋼 輸出数量は、26,038tで前月比+53.4%と増加。 棒鋼輸出数量は15,007tで前月比▼30.7%と減少。</p> <p>輸入：5月の形鋼輸入数量はH形鋼以外も含む全体で10,170tと前月比+0.6%の増加。内、H形鋼 輸入数量は、8,136tで前月比▼3.5%の減少。 棒鋼輸入数量は2,690tで前月比+248.2%と増加。</p>
4. 海外市場動向	<p>2024年6月平均WTIは78.89ドル/バレルとなり、前月比略横這い。今後は80ドル/バレルでの推移が予想されている。しかし、大統領選でトランプ氏が再選された場合は中東諸国との関係悪化で100ドルを上回る可能性もある。</p> <p>米国リグカウント数は6月最終週：479、前月最終週：496から減少。</p>	<p>世界鉄鋼協会がまとめた世界71カ国の5月の粗鋼生産量は前年同月比1.5%増の1億6,510万トンであった。中国は9,290万トンに増加、インド・トルコなども増加し、全体を押し上げる結果となった。1-5月累計では7億9,320万トンと前年同期比0.1%減でほぼ横這いとなった。</p> <p>中国政府の景気対策効果の影響は限定的であり、不動産開発投資のマイナス幅が拡大する中で余剰製品が海外に流れる構図は引き続き変化はなく、市況は上昇の兆しが見えない。</p>	<p>中国市況は依然低調のまま推移している。不動産不況の影響により建築分野の需要が低調に推移する一方で粗鋼生産、鋼材在庫が高位にあり、鋼材市況を下押ししている。韓国も中国市況の下落に引っ張られ、市況は依然低水準となっている。</p> <p>韓国の23年度の造船受注量は1,008万GCT(前年比39.9%減)となっており、人材不足の影響によりさらなる新規受注ができない状態にある。</p>	<p>欧米の景気下振れリスクの軽減、東南アジア諸国の内需・輸出の回復、インドの堅調持続等により緩やかながらも成長への回帰が窺われている。一方、米国のインフレ再燃リスク、不動産不況で低迷が続く中国、政局が不安定な欧州は、依然景気回復の動向が不透明である。5月の世界粗鋼生産量は前年同月比+1.5%の1億6,510万tと3か月ぶりの増加。中国材の高水準な輸出が継続する中、周辺国の警戒感も強まっており、引き続き動向を注視する必要がある。</p>

鉄鋼流通問題懇談会（2024年8月）

発表者 発表項目	メーカー JFEスチール
1. 需給動向（景況感）	<p>（国内）・6月の日銀短観では企業の景況感を表す業況判断指数（DI）が大企業・製造業で前回（3月）調査比+2の+13と若干良化（前回先行き比では+3の良化）。先行きは+14となり、足元比+2で良化方向。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家計部門について、5月の小売業販売額は前年同月比+3.0%と27ヶ月連続の上昇。物価上昇の影響等により、上昇が継続。 ・製造部門では5月四輪車生産は前年同月比+4.5%と5ヵ月振りの増加。5月の機械受注（民需）は前月比▲3.2%と2ヵ月連続の減少。 ・建築部門では5月の全建築物建築着工床面積は835万㎡（前年同月比▲7.1%）と減少傾向が継続となった。 <p>（海外） 米国：底堅い成長を見せてきたが、高金利継続に伴う住宅投資の減速や選挙前の様子見感もあり、一時的な停滞感が見受けられる。 欧州：インフレ圧力の低下もあり、景気に底打ち感が見られる。国ごとの濃淡はあるものの、緩やかな回復が見込まれる。 中国：主要産業である不動産市場が引き続き低迷しているほか、地方の財政懸念や力強さを欠く政府施策、西側諸国とのデカップリングの動きなどにより、経済成長の加速は見込みにくい状況。</p> <p><国内鉄鋼需給> （生産）・6月の粗鋼生産（速報）は702万tと前年同月比で4ヶ月連続の減少。 （出荷）・5月の普通鋼国内向け出荷は299万トンと前年同月比で2ヶ月振りの減。輸出向け出荷は181万トンと4ヵ月連続の減少。 （在庫）・5月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は537万トンと前月末比で1ヶ月ぶりの増加。 ・5月末の薄板3品在庫は412万トン（前年同月比+8万トン）。今年に入って以降、400万tを超えるレベルが継続。 ・5月末の厚板シャー在庫は38万トン（前年同月比▲1.7万トン）。23年後半以降、概ね横ばいで推移。</p>
2. 需要産業動向	<p>〔建築〕・5月の新設住宅着工戸数は6.6万戸（前年同月比▲5.3%）と2ヶ月ぶりの減少。貸家・持家・分譲、いずれも減少。 ・5月の非住宅着工床面積は287万㎡（前年同月比▲11.8%）と2ヵ月連続の減少。用途別では倉庫が大幅減。</p> <p>〔自動車〕・6月の国内販売（輸入車除く）は34.4万台（前年同月比▲5.3%）。6ヵ月連続での減少。 ・5月の完成車輸出は29.6万台（前年同月比▲0.4%）。2ヵ月ぶりの減少。 ・5月の四輪車生産は65.1万台（前年同月比+4.5%）で5ヶ月ぶりの増加。</p> <p>〔造船〕・6月の新造船受注量は215万GT（前年同月比+74.3%）。手持工事量は3,025万GT（前月比+4.8%）と5ヵ月連続の増加。</p>
3. 輸出入動向	<p>〔輸出〕・6月の全鉄鋼輸出（速報）は259万トン（前年同月比▲8.6%）で5ヶ月連続の減少。 〔輸入〕・5月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は47万トン（前年同月比+9.5%）と16ヶ月連続の増加。</p>
4. 海外市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ・6月の世界粗鋼生産（推計含む）は1億6,140万トン（前年同月比+0.5%）。2ヵ月連続の増加。 ・6月の中国粗鋼生産（速報）は9,161万トン（前年同月比+0.5%）。 ・6月の中国鋼材輸出（速報）は875万トン（前年同月比+16.4%）。 ・中国市中在庫は、7月26日時点で1,269万トン（前年同期比+7.5%）。